

「港南台地区センターまつり」

2023年03月06日

私どもの住む町で「港南台地区センターまつり」、通称「港南台まつり」と言われるイベントが毎年2月に開かれている。コロナの流行で、休会であったが、今年は3年ぶりに再開された。「港南台まつり」は、港南台近郊に住む人々が、一年間、研鑽したものを展示するまつりである。絵画、書道、木彫、生け花、パッチワーク、フラワーアレンジメントなどが展示される。特別支援学校や福祉ホームの製作品の出品もある。舞台発表として、フラダンス、舞踏、よし笛、ジャグリング、三味線なども鑑賞できる。更に、野菜や手造りパンなどの模擬店もある。子どもを対象に、竹細工、木工などの制作場もある。近くの方々が集まって、自作品を展示、練習を重ねたものを見てもらい、親子共々楽しもうとするまつりである。これに「港南台9条の会」が参加している。9条の会は、「港南台まつり」の趣旨からはいささか外れ、一年かけて研鑽したものをお見せするようなものはない。「港南台まつり」の中心メンバーであったHさんは、スポーツを通して平和を作り出したいと活躍されていた人で、平和を発信する「9条の会」を出展できるように計らってくださった。お陰で、毎年、参加している。今までは、平和川柳、平和を描いた絵などを並べて、会の趣旨に沿うように努めて来た。最近の出し物は「平和のバラ」である。

愛媛県今治市、瀬戸内海の島でミカン作りをしている横浜港南台教会員のEさんを訪ねたことがある。その時、福山駅から四国に繋がる「しまなみ海道」のバスに乗った。福山駅近くの店はどの店もバラできれいに飾られ、目を惹かれた。後で知ったのだが、福山はバラの町として有名になったそうだ。その福山で、平和を象徴する「バラ」の折り紙、別名「福山ローズ」が作られた。一枚の折り紙を複雑に折って、見事なバラを作り出す。私など不器用な者はできないが、妻は訓練して、15分に1コ作れるようになった。

9条の会では、「福山ローズ」を折って平和を訴える企画にした。下の写真は、折り紙のバラを並べて、9条の会らしい形にしたものである。多くの方が折り紙のバラ作りに協力し、千コくらい作られたのではないかと飾っただけでなく、テーブルの上に置いて、お土産に差し上げた。皆さん、喜んで、持ち帰ってくださった。その時、私が手渡ししたかったのが『平和のバトン』である。『平和のバトン』は、毎月土曜日の午前10時から開いている9条の会の例会で、皆さんに平和へのメッセージを語ってもらっているが、10人ほ



どのメッセージを簡潔にまとめた小冊子である。発言者は自分の体験から平和についての思いや平和運動への関わりを語っている。今回は、第5集を配布した。『平和のバトン』を皆さんに読んでもらい、平和を身近な問題として捉えてくださることを期待している。9条の会は、どこまでも「草の根」の平和運動である。市民が市民に呼びかけ、平和を作り上げる働きになることが何より大事だと思っている。